

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200180		
法人名	医療法人 恵和会		
事業所名	グループホームたじま 2階		
所在地	岡山県倉敷市児島柳田町991-1		
自己評価作成日	令和3年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200180-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は医療法人の為、母体病院の主治医と看護師と連携を図り、充実した医療を行っている。その為、入居者様、ご家族様には「安心して居てもらえる」と言って頂けており、母体の病院にも受診に行き、毎日落ち着いた生活を送って頂いています。
ホーム内では、体操や歌をうたったり、創作活動をしたり、入居者様同士が楽しく表情よく過ごされています。季節感を味わって頂けるように行事や誕生会などを行っています。都度、職員全員での情報共有を行いながら、入居者様に寄り添い、希望に沿ったケアが行えるよう心がけています。
現在もコロナ禍の為、ご家族様との面会も出来ていませんが、変化が見られた時だけでなく、定期的に近況報告を行い、安心して頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人の医師の強力なバックアップがある。医師は、ほぼ毎日診察に訪れ、利用者の事を熟知している為、的確なアドバイスがもらえる。例えば、パーキンソン病の利用者が、痛みを和らげるため、痛み止めのシップを何枚も貼っているのを見つけた時には、過剰投薬を懸念し、代わりに爽快感のあるローションを用意した。昼と夜、職員が労わりながらそのローションを塗布することで、シップを貼らずに過ごせるようになった。また、腰を曲げて歩いていた利用者に対し、肩のマッサージを続けた事で姿勢が改善され、歩行も以前より楽になったようだ。入居当初は、帰宅願望が強かった利用者から今では、「ここに居たら世話をしてくれるので、ずっとここに居たい」と言ってもらえている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の掲示板、事務所内に職員が常に見ることができるように掲示している。時々、職員間でも確認しあうようにしている。	1階の理念は「挨拶」「笑顔」「感謝」を掲げている。職員は笑顔で挨拶を行い、手伝ってくれる事に感謝を伝えている。2階も「笑顔を見せて頂く」を掲げ、楽しい話題を取り上げ、笑顔を増やす努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体の病院に地域の方が、踊り等の慰問に来てくれ見学に行ったり、病院受診の際、地域の方と挨拶を交わしたり、お話されることで交流が図れていたが、コロナ禍の為、現在は出来ていない。	コロナ禍になる迄は、下校中の小学生が事業所に寄り、お茶を飲んだりトイレを使用したりした時に、利用者と交流していた。現在は、登下校中の学生と挨拶を交わす程度である。地域の一員として清掃除に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、年4回発行の広報誌は発行出来ていないので、取り組み、入居者様のご家族に渡している。また母体病院にも外来患者様向けに広報誌を設置することでグループホームへの理解を深めて頂けるようにしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、R2.11月から現在まで開催できていない。が、現在のグループホームに関する事や行事、身体拘束のなどを報告し、意見を頂きサービス向上を図っている。	現在、コロナ禍のため運営推進会議は中止しているが、地域の人からの相談の場ともなっていた。例えば「認知症の疑いのある人が居るが、どうしたら良い」等の質問が上げれば、管理者が今後の対応について答えていた。	コロナ禍で会議は中止されているが、運営推進会議委員にも毎回の報告書を郵送し、事業所の実情の理解を深めて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員に参加して頂き、アドバイス等を頂いたり、必要に応じて指導も受けていたが、コロナ禍で開催出来ていない。何か疑問等あれば、連絡し指示を仰いでいる。	不明点は、その都度相談をしている。例えば、誤嚥防止のための補助ツールを導入する際、身体拘束の可能性について賛否が分かれた。そこで市に確認を取り、職員は不安なく利用者にとって有益なツールを導入することができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等でも職員間で話し合いの場を設けると共に、疑問がある時には指導監査課に連絡し指示を頂いたり、研修資料等でも職員が周知できるようにしている。ユニットから外に出る扉は出入りがあると入れ替わりに出てしまう入居者様が居られた為、施錠している。入居者様には身体拘束がないよう努めている。	帰宅願望の利用者が数名いる。できるだけ外へ出て気分転換を図っている。また、手持ち無沙汰にならないよう利用者が望む洗濯、掃除、お盆の片付け、草抜き等の用事をしてもらう。夜は特に帰宅願望が強くなるので、歌謡曲を流しながら皆で歌を歌い、落ちついてもらう。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、言葉の虐待が行われぬ様に、情報共有し、会議等でも職員間で話し合いの場を設けると共に、研修資料等でも職員が周知できるようにし、声を掛け合っている。管理者は職員のストレスや疲労感の把握に努め、訴えに耳を傾け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用している方も居られ、新しい職員もいるので、成年後見制度についての資料等を配布し、目を通してもらい、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、同意のもと署名・捺印を頂いている。改定の際も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡し、近況報告の際に、話をする中で意見が聞きだせるよう、雰囲気作りに努めると共に要望等も聞いている。またその意見を反映させられる様にその都度、ケア会議等で話し合ったり情報共有している。	利用者の様子を毎月電話で連絡し、利用者だけではなく、家族とも良好な関係を保っている。事業所から電話が入ると、利用者に何かあったのかと心配されるので、「お変わりなく過ごしています」と電話の第一声にも気を付けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者にはホーム来所時等に意見交換や指示を仰ぐよう努めているが、なかなか伝わらないことも多い。何かあれば管理者に相談し、また会議・連絡ノート・申し送り等で聞き反映させている。	管理者は、縁があってこの事業所で働いてくれている職員の事を大切にしたいと考え、話を聞く機会をできるだけ作っている。給与面等の相談に関しては、直接代表者に伝えてもらい、改善してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ほぼ毎日の来所時に職員の状況や変化を把握していると思われるが、ケアへの意欲や向上心、やりがいがないと感じてしまう場面も多いのではないかとと思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員は職員間で情報交換する事で知識、技術の向上に努めている。 代表者が職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握しているのか、いないのか、信頼関係は薄いかもしれない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、グループワーク等で意見交換を行ったり、他事業所の運営推進会議に参加させて頂き参考にしていたが、現在はコロナ禍の為、出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴等を把握し、声かけ、傾聴等、コミュニケーションを図りながら、要望等を聞き、職員間で情報共有し安心して楽しく過ごして頂けるように努めている。入居者様一人一人に声かけ、寄り添い、1対1で向き合い、コミュニケーションを取りながら、少しずつ信頼関係を築いていくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に要望等を伺い、来所の際にも職員から積極的に近況報告等を行うことでコミュニケーションを図り、話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で、今のニーズを把握できるよう、ご本人様、ご家族様にしっかりと聞き取りを行い支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気持ちをくみ取り、家事作業やアクティビティを一緒に行いながら、会話を通じて馴染みの関係を崩さないようにし、出来るだけ要望に応えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、面会や電話連絡の際、近況報告を行い、意向を聞き、面会時には入居者様を交えてご家族様とコミュニケーションを図り、信頼関係を築けるよう努めている。現在コロナ禍の為、面会は出来ていない。電話で話せる方には声をかけて話して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で、思い出話を傾聴し、一人一人の人生があるので、声かけを続けていくことで大切な思い出を忘れないよう会話の中に取り入れている。外出ができるようになったら、ご希望の場所等出掛けたいと思う。	家族との結びつきに勝るものはないとの考えで、県外の人には遠慮してもらっているが、近場の人には窓越しではあるが、いつも通り面会してもらっている。毎月請求書も事務所まで取りに来てもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が孤立せず、交流を図れる環境を作り、職員が会話の橋渡しをしたり、一緒に家事作業や体操などを行いながら、関わりの時間を増やし、支え合い孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、依頼等があった場合、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの立場になり、コミュニケーションの中で思いや意向の把握に努め、困難な場合も、ご本人様と職員の話し合いの場を設け、入居者様の気持ちを尊重し、ご本人様にとって良い方向にもっていけるように努力している。	利用者の傍らに座り、思いを汲むように努めている。不穏の様子が続いている時は、医師にも相談し対応をしている。顔つきがいつもと違ったり、職員の顔をじっと見ていたりする時は、居室に行き思いを聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様に伺った生活歴等を職員間で共有し、把握に努めている。また日常会話の中で馴染みの暮らし方を聞きだすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調、状態を、接したり会話等で把握し、一人ひとりを様子観察し、出来る事、出来ない事を見極め、職員間で情報共有、また記録に残し、現状の把握ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回、職員全員で会議を行い、必要時には、その都度、本人や職員の意見を聞き、ご家族様には電話等で近況報告する際に、要望等を尋ね、課題を見つけ介護計画を作成している。	ケアプラン実施表に、今必要な支援や体調管理などを項目に挙げ、毎日実施できたかどうかの記録をしている。利用者の状態が一目で分かりやすく、それを参考に今の状態を把握し、次回の介護計画作成時の参考にしている。家族には面会時に意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの状態把握に努め、いつもと違った言葉や行動に気付く目を持ち、個人日誌やチェック表に記入し、職員間で情報共有し、必要時には会議を設け、その都度、適切な対応になるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意向をくみ取り、その都度、必要なサービスを提供し、その方が満足して頂けるような支援が出来るよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で介護保険課の職員、包括支援センター職員、地区代表の方、近隣のグループホーム職員から情報収集、情報交換を行っていたが、現在はコロナ禍の為、出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院の医師が、本人やご家族様の希望されているかかりつけ医となっている。かかりつけ医以外への通院はご家族様が協力をして下さっている。訪問診察に来て頂くこともあり、複数の医療機関とも関係を結んでいる。	母体病院の医師は、利用者にとって一番良いと思う医療の提供に取り組んでくれる。入所前から服用していた薬も不必要な場合は、利用者の様子を確認しながら減らすようにしている。利用者にも薬を減らすことで、活動がしやすくなる事を説明し納得してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、状態に変化があれば報告し、ケアの方法など、指示を仰ぎ、受診が必要であれば、その都度、医師に報告し、指示を仰ぎ、早期発見に努めながら体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際は、ホームより情報提供書を渡し、普段の状態や特徴を伝達している。また、早期退院が出来るよう連携を図っている。コロナ禍の為、お見舞いは出来ないが、ご家族様と連絡をとり、状態を把握出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、ご家族様に医師から十分な説明を行い、職員からもホームとしての指針の説明を行う事で支援に取り組んでいる。ご本人様やご家族様の意向を汲み取り、医師と職員が連携して、安心して納得した最期を迎えられるように努める。	家族と相談しながら、終末期の対応をしている。医師も毎日診察に来てくれるので、何かあれば直ぐに相談ができる。点滴が必要な場合は、看護師が対応してくれる。コロナ禍の為、面会は控えざるを得なかったが、危篤時には面会してもらおう等、臨機応変に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の細やかな体調変化も見逃さず、早期報告と観察力を身につけ、処置の方法や対応等を職員間で情報共有し、実践できるように再確認し努力している。急変時の対応を事務所のいつも目の届く場所に貼っている。訓練は出来ていないので機会を設けるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。地域の方、主治医、看護師にも参加して頂いている。消防署の方の指導の下、消火訓練も行っている。現在はコロナ禍の為、消防署立ち合いは出来ていない。	避難訓練計画を立て、訓練を実施し、職員間で反省点を話し合っている。次回の訓練では、反省点を意識しながら実施するように努めている。全員が誘導できるよう、毎回担当者を変更している。	現在は、数か所に電話をする手順が取られているが、緊急時にはボタン1つで助けを呼べる等、できるだけ簡単な手段を検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、その方にあった言葉かけや対応を心掛け、人格を尊重し、誇りやプライバシーを書さないように努めているが、時々入居者様の言葉より、こちら側優先に使っていることがあるので、都度、職員同士声を掛け合い、次に繋げるよう努めている。	職員は、利用者の自尊心を傷つけるような事は言わない。例えば、盗癖のある人が他の利用者の物を盗もうとする時は、「名前が違いますね」と一緒に確認するように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いをくみ取り、しっかり傾聴し、思いを共有しながら、ご本人様が答えやすく、自己決定できるように言葉かけ等配慮し、希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その日の体調や状態を見ながら、言葉かけ、傾聴し、希望に添うように対応している。が、こちら側の都合で決めてしまっていることもあるので、嫌な記憶に繋がらないように配慮していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	言葉かけをしながら、一緒に服を選んだり、ご本人様の希望に添うようにし、その時々に応じた(季節や気温にあった)服装を提供し、満足して頂けるよう努めている。また、毎月、理美容室の訪問があり、ご希望をお聞きしてカット等してもらい喜んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おいしく食べて頂けるよう調理、盛付けを工夫し、行事食等で食べたい物をお聞きして、お出ししている。嫌いな物についても調理過程で工夫し対応している。簡単な作業は、声かけし、一緒に行っている。	管理栄養士やインターネットで得た献立を参考に、好みのメニューに変えている。季節の和菓子を取り寄せ、目でも楽しんでもらう。目先を変え、仕出し弁当、バイキング、たこ焼き、お好み焼きも実施し、小食の人もいつもよりたくさん食べてくれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューに沿って調理をしており、食事以外にもティータイムの時間を設け、水分摂取に努めている。一人ひとりの体調等把握しており、状態に応じてキザミ食、トロミやストローを使用している。また、食欲のない時には高カロリーゼリーや、飲料を提供し、必要摂取量をとれるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後とまではいかないが、朝夕は声かけ、介助にて口腔ケアを行い、その他は必要に応じてして頂いている。変化等見られた時には、主治医等、医師と連携して対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、各自の排泄のパターンを把握し、声かけや話をしながら、一人ひとりのペースに合わせて誘導、必要時には介助し、衛生面も考えながら支援している。	尿意が分からない人も居るので、時間を見ながらトイレへ誘導している。利用者が眉間に皺を寄せるだけで便意が分かるほど、職員は利用者のわずかな変化も見逃さない。車椅子の利用者も二人で介助し、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医指示の下、体操や散歩、下剤等で排便コントロールを行っているが、飲食物の摂取量に配慮し、食事に食物繊維の食材を増やしたり等の工夫もしている。日中、夜間の水分補給にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが時間内での希望には対応している。現在、入浴を拒否される方は居られないので衛生面も考慮しながら、楽しんで入浴して頂けるような声かけを行い支援している。入浴が出来ない時には清拭、足浴等、個々に合わせて支援している。	入浴中は、普段聞けない話をしっかりと聞き、他の職員にも共有している。シャワー浴の利用者には、湯船の湯をかけながら体の芯から温もってもらう。体を洗うタオルとマットを個人毎に分けているので、水虫の人がほとんど居ない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ、日中に体を動かして頂いたり、その日の体調や状態など、様子観察しながら対応し、傾眠ある方も入居者様のペースに合わせて休憩時間を作り、布団や寝間着の清潔を保ち、落ち着いて安眠して頂けるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医指示の下、薬状をしっかりと確認し、理解を深めている。また変更等があった場合には、薬ノートに記入したり、事務所内のよく見える所に貼ったりして情報共有している。服薬時には、ご本人様に手渡して、服薬出来ているかの確認をしっかりとるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ、歌、体操、創作活動等や誕生会、季節の行事、を取り入れ、一人一人が楽しんで頂けるよう努めている。役割の中で、労いの言葉や感謝の声かけで、ご本人様もやりがいを感じて頂いている。また、ドライブや散歩等を取り入れ、気分転換を図って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	母体病院への受診、検査に参加。コロナ禍の為、外出がままならない毎日だが、様子を見ながらドライブに出掛け、それぞれの馴染みの場所を通ったり、施設周辺を散歩する等、気分転換に努めている。	外出が好きな利用者が多く、月1回はドライブに行くようにしている。医師からも外に出ると刺激になるので、できるだけ外気に触れる機会を増やすようにと指示されている。受診時やドライブに出かける時は、自宅付近の道を通るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自身で所持している人はいない為、ホームにてお小遣いをお預かりしている。希望があれば買い物支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用して頂く事が出来、音量を調節して話して頂いている。手紙は声かけ、提供するも書こうとはされないが、要望があれば、いつでも対応することができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るようにホール壁面を毎月変えている。創作活動の作品を飾る事で、皆の手が加わっているのが会話の中に取り入れると笑顔が見られている。季節の行事も行っている。その時々々の写真を飾ると眺めながら、その時のことを思い出された言葉が聞かれている。	住宅地に事業所は在るが、樹木に囲まれているので四季折々の風景が目に入る。利用者からも「紅葉が綺麗だね」と言ってもらえる。眩しい時にはカーテンを閉め、目に負担のない様になっている。気候の良い日は窓を開けているが、利用者から「寒い」と言われれば、窓を閉めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置を工夫したり、ソファーを利用して休まされたり、ホールでは職員と一緒に歌、体操など、楽しんで過ごされている。自室にも自由に出入りされ、その際には職員が訪室し、様子観察している。また、状態に合わせて席替えもしたりして居心地の良い場所になるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より持って来て頂ける方に関しては、家具、寝具等を持って来て頂き、自宅と同じような雰囲気でも過ごして頂ける様に工夫している。その際、ご家族様のお話を交えながら、ご本人様にとって安心出来る場所になるよう努めている。	自分の好きな物を持ち込み、居心地よく過ごせる工夫をしている。皇室好きの利用者は、皇室カレンダーを飾り、写真集を眺めている。暇があれば自分のゲーム機でゲームを楽しんでいる利用者もいる。毎回、推理小説を家族に持って来てもらい、時間がある時に読んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態、状況に応じて会議等で検討し、出来るだけ、ご本人様の不安や混乱がなくなるように努め、物を設置する時は行動の妨げにならない様に安全面を考慮し、残存能力を活かしながら生活が送れるよう環境づくりに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200180		
法人名	医療法人恵和会		
事業所名	グループホームたじま1F		
所在地	岡山県倉敷市児島柳田町991-1		
自己評価作成日	令和3年9月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200180-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は医療法人の為、母体病院の主治医と看護師と連携を図り、充実した医療を行っている為、入居者様、ご家族様には「安心して居てもらえる」と言ってもらえており、母体の病院にも受診に行き、毎日落ち着いた生活を送って頂いています。現在コロナ禍で外出等で外出を控えております。また、感染を防ぐため手洗い消毒、健康管理を徹底しております。

ホーム内では、体操や歌を唄ったり、創作活動をしたり、入居者様同士が楽しく表情よく過ごされています。季節感を味わって頂けるように創作活動、行事や誕生会なども行ったりしています。その都度、入居者様の希望に沿ったケアが行えるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの共有空間に掲示している。職員全員で話し合う機会を設けて実践に繋げるよう支援している。独自の理念を作成して実践に務めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	随時地域の催し事に声をかけて頂いたら参加していた。年二回の清掃作業にも参加していた。駆け込み110番の連絡場所にもなっているが、コロナ対応にて現在は全て中止中(緊急を除く)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を発行して、家族、地域の方、母体の病院に配布している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、高齢者支援センター、介護保険課、他GH、主治医、看護師に参加してもらい、日常生活の様子、行事、今後取り組んでいく内容を報告して意見交換を行いサービス向上に活かしていたがコロナ禍により委員会は中止している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営基準についてなど、疑問に思う事やわからないことは聞くようにし、その際に、より良く支援を行うにはどうすればよいかを話し合っている。運営推進会議の時に情報を聞いたり、疑問点を聞いて解決に繋げている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様にとって何が拘束にあたるか、今行っている行為は拘束にあたらぬか等、常に意識しながら支援に努め、ホーム内での勉強会で共通認識を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、会議の時に話し合いの場所を提供して知識を反映する様努めていたが、コロナ禍にて研修は行っていない。ホーム内で勉強会を行い、共通認識を図っている。また、勤務体制でストレスがたまらないようにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が活用しているので職員は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に一方的にならないよう説明して、理解、納得していただき、サービスを開始している。書いて居や変更がある時には随時説明して承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様は日常生活に関わりながら、家族には面会時や電話連絡の際に意見要望を言ってもらえる雰囲気づくりに努め、また会議でも意見交換して、承諾を得ている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションをとり、職員が言いやすい環境づくりに努めている。毎月の会議で意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、職員の要望や意見を随時代表者に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は多くの職員が参加できるように心掛けていたが、コロナ禍にて研修への参加はほぼしていない。研修があった際は内容を職員間で共有しスキルアップに努めている。また、資格取得にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は少数の事業者しか交流がないので機会があれば学習会や交流をする機会を設けて質の向上に繋がれたらと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族に情報を聞きながら日々関わりを持ち、本人の思いをくみ取りながらその思いに寄り添い、安心して過ごすことができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の情報を聞きながら思いを受け止め、一緒に本人が安心して暮らせるよう考えて支援していく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、かぞくのそれぞれの要望、思いを受け止め一緒に本人が安心して暮らせるよう考えて支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事とできない事を見極め、できる事は役割として行ってもらい、お互いに助け合い感謝の気持ちを持って支え合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告をしながら、信頼関係を築き、ゆっくりと過ごす時間を提供して、時には本人の思いを聞いて情報を共有し、支援に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほとんどの利用者様が地域の方なので、外出は馴染みの場所に出かける機会を多く提供している。地域の行事に参加して馴染みの方との交流に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごせるように入居者様同士の関係を把握し、職員も会話の中に入り孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談、依頼があれば支援に努める		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図りながら思いをくみ取るように努めている。意思疎通が困難な方は生活歴の把握はもちろん、ご家族様からの情報を聞いたり、表情、動きからくみ取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係者からの情報や、日々の会話をヒントに把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的にはホームの生活パターンに添って過ごしてもらう。自立している方は本人のペースで過ごしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に意見や要望を聞いて、月1階の会議で話し合いを設け、より良く暮らしていけるように作成している。また情報が変わるので、その都度意見交換をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に1日の暮らしの様子を記録している。他に医療ノート、連絡ノートで情報共有、意見交換をして介護計画を見直せられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、医師、看護師等の他職種と連携しながら対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	母体の病院を中心に地域包括支援センターの情報、地域の方との意見交換や、訪問理容を利用した支援		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診、受診の支援。サービス開始時にかかりつけの病院を確認、選択をしてもらう。病院に受診する際には必要に応じて情報提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週5日、看護師に健康管理や体調の状態を報告して、早期発見に努め適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	その時の状態に応じて本人、家族の意向を聞いたうえで随時医療機関と連携し支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族、本人に意向を聞いて対応に努めている。重度化に直面した時点で、サイド、確認して意向に沿って支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルは事務所に掲示して意識確認を行っている。必要に応じて医師、看護師に報告、指導のもと、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、地域、家族、(消防署職員、年1回参加)の方々と、避難訓練、消火訓練を行ってきた。(コロナ禍では職員と利用者様のみで行った。)迅速かつ確実に誘導できるよう訓練し、防災マニュアルも作成して体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係の意味を理解して言葉かけや対応に配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さりげない日常会話から思いをくみ取り支援。意思表示ができない方は家族からの情報や表情からくみ取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必要に応じて業務優先になる事もあるが、出来る限り本人ペースで暮らしていただけるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわっているスタイルを把握し、職員は見守り、必要な時は支援している。また、季節にあった服装の支援と清潔保持に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、誕生日には希望食提供。お盆吹きや食器洗い等の家事作業はできる範囲内で本人の意思を尊重している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、形態は個々に合わせた支援をしている。健康状態にも合わせその都度工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態に合わせてうがい、歯磨きを声掛け介助で行っている。訪問歯科の利用。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導を行い出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を確認しながら、食物繊維や乳製品(手作りヨーグルト)、集団体操、水分補給で対応している。また、医師の指導のもとで、緩下剤で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが本人ペースで、脱衣所の温度、湯の温度、入浴剤を入れて気配りしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごしてもらう様努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと、薬剤情報提供書を確認し、理解を深め、変更がある時は医療ノートに記入して、症状を観察して異常の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意なものを把握し支援に繋げている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は外出する機会が少なくなっている。家族と出かける入居者様には近況報告して本人の意向を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族よりお金を預かり事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、要望があれば支援しているが、家族の要望により電話の掛けられない方は職員が代わりに電話をかけて本人の意向をお伝えてしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節を行い、入居者様同士の会話が弾むような空間を確保している。掲示物は、毎月の行事や季節感を取り入れて工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士、席は一緒にしているが状況に合わせて席替えをして気分転換を図ったり、一人になりたい方は自室で過ごせる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等持ち込まれている方、家族の写真、手紙、創作活動での作品を飾っている。希望によりテレビ、冷蔵庫等の設置も行う。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を掛け、解りやすくしている。居室内は転倒の危険があり入居者様は安全を重視してベッドの配置を考え導線の確保、共有空間も配置に気を配っている。		